

# 学び、考え、話し合う！ファミリー防災

中央消防署

消防士 渡部 英里

## 【要旨】

共働き世帯が増え、働く世代が防災を学ぶ機会は減少しています。家族で防災について考えるファミリー防災スクールを提案します。

## 【本文】

「みなさん、今日学んだことをおうちの人に話してみてください。そして、家族みんなで防災について考えてみましょう。」

私は、学校での消防訓練や命の教育で子どもたちに、こう伝えています。

「命の教育」は、松山市消防局が、市内の小中学生を対象に、幼少期から命の大切さについて考え、いざというときに一歩踏み出せる、強い心を育てることを目的として実施している、防災教育や救命講習です。

子どものころは、「目の前で人が倒れたとき」「火災があったとき」「自然災害にあったとき」どうすべきなのか、学校での消防訓練や防災教育を通して学ぶ機会があります。

しかし、大人になるにつれ、その機会は減少しています。災害発生時に、様々な役割を担うであろう私たち働く世代は、自ら学ぶ機会を作らなくてはなりません。

近年、女性の社会進出により、共働きの世帯が増えています。私は子どものころ、両親が共働きだったため、家族で防災について考えていませんでした。

災害は待ってくれません。夫婦ともに時間に追われる中であっても、私たち働く世代が、防災について考える必要があります。

そこで私は、「ファミリー防災スクール」を提案します。

「ファミリー防災スクール」では、各学校で実施している参観日の授業で、「学び、考え、話し合う！ファミリー防災」をスローガンに、参加しているすべての人が主役の防災授業を行います。

まずは、いつ、どこで、誰といるか、何も予測できない災害から、自分の命を守るために、命の守り方について考えます。次に、各家庭に配られているまつやま防災マップを活用して、避難場所、避難経路、連絡方法などを親子で話し合い、発表してもらいます。参観日には、同じ地区の人が集まります。家族だけでなく、多くの人と情報を共有しておくことは災害時の強みになります。

さらに、災害が発生すると、学校は避難所へと変わります。慣れない環境での集団生活は、誰にとってもストレスです。最近では、新型コロナウイルスの発生により、避難所生活も大きく変わることを想定しなければなりません。そのため、事前にその施設について知っておくことも大切です。学校を一番知っているのは、子どもたちです。直接、学校について教えてもらうことができることも、この授業ならではの強みです。

子どもたちの真剣に取り組む姿には、私たち大人を動かす力があります。子どもたちと一緒に学ぶことは、大人たちが防災について、興味・関心を自然と持つ

るきっかけになります。

そして、このファミリー防災スクールをきっかけに、多くの人が自分のまちの防災について考えることで、さらに、災害に強いまちができるはずです。

災害は一瞬にして日常を奪います。災害のないまちはありません。だからこそ、自分の命を自分で守るのと同じように、自分たちのまちは自分たちで守らなくてはなりません。

子どもたちや高齢者だけでなく、私たち、働く世代の防災力が、いま、試されています。